



花 王

須賀川市立第三小学校
 学校だより NO. 2
 令和元年 5月21日
 発行者 校長 須田元大

○深く考える子ども ○明るく思いやりのある子ども ○強たくましい子ども

○「創立60周年 歴史のバトンをみんなでつなごう 三小大運動会」

いよいよ、今週の土曜日（25日）に迫ってきました。

子どもたちは日々、練習に一生懸命に取り組んでいます。皆さんの小学生時代と比べると、今は授業時数に余裕がないので限られた時間しか練習できませんが、精一杯がんばっています。

さて、保護者の皆さんへのお願いの文書はすでにお手元に届いているかと思いますが、特にお願いしたいことは以下の2点です。

① 風の強い日が続いています。

簡易用のいす等（風でとばされ、だれかにぶつかった時にけがをさせる可能性がある物）のお持ち込みは、原則としてご遠慮願います。

ただ、お年寄や体が不自由な方で、どうしても必要な場合は、突風が吹いても吹き飛ばされないような工夫をお願いします。持参した物が飛ばされて誰かにけがをさせてしまうと、所有者の責任が問われます。

本校でも鏡石一小的の事故を教訓として、テントが飛ばされないように例年以上に厳重な対策を講じております。

② 気温の高い日が続いています。

現在の天気予報では、土曜日に雨の心配はありません。しかし、日差しが強く気温が高くなることが予想されています。子どもたちは水筒を持ち、帽子をかぶっています。



応援に来ていただくご家族の皆さんも熱中症対策をとって御来校ください



◎奉仕作業の御協力ありがとうございました。

18日（土）の奉仕作業には、たくさんの保護者の皆さんや子どもたちに参加していただき、奉仕作業を実施することができました。参加してくださった皆さん、ありがとうございました。



◎お子さんのあるがままを受け入れていますか。

子どもたちに自己肯定感、自己有用感を持たせることは、本校の目標です。学校では、そのために様々な場面で工夫をしています。御家庭ではいかがでしょうか。参考になる文献が「現代ビジネス」のサイトに掲載されていたので抜粋してみました。

島沢優子さんの連載「子育てアップデート～子どもを伸ばす親の条件」より、一部抜粋

今の子どもたちは親の世代と比べようのないほど、ストレスを浴びているとされる。右肩上がりではない経済、閉塞的な空気の中で親も教員も余裕がない。いじめてしまう子は、他者を傷つけることで自分を保っているように見える。

成田先生は言った。

「学校の成績とか、サッカーでレギュラーになったとか、何か子どもが努力しないと得られない結果で子どもを評価しないでほしい。それよりも、あんたって何だかわからないけどいいにおいがするねえ、とか、ほっぺがふっくらしてて、ぷくぷくでいいねえ、みたいな、子どもは何もしなくても、存在するだけでお母さんやお父さんが満足しているよ、っていうことを伝えてほしい」

そうやって育ってきた子が「最強」なのだ。

自分の「あるがままの存在」が親に受け入れられていることが伝わると、その子は高い自己肯定感を持てる。自尊感情が満たされ「自分は生きていていい存在。大事な存在だ」と思えば、外でさまざまな攻撃を受けても、温かな家に戻って体を休めることができる。また、安全基地になれる親たちは、わが子以外の子どもにも同様に接していると思う。

※成田先生・・・子育て科学アクシス(千葉県流山市)で発達障害や不登校などの相談を受けている文教大学教育学部特別支援教育専修教授の成田奈緒子先生